

## まちづくり出前市長室（鳴門西地区）開催記録

1. 日 時 平成22年 8月26日（木） 午後7時から午後9時まで
2. 場 所 鳴門公民館
3. 参加者 市民 約20人  
市関係者 市長、副市長、企画総務部長・参事、市民環境部長・副部長  
秘書政策課、市民生活安心課

- 
1. 勝田会長（鳴門西地区自治振興会）あいさつ
  2. 市長あいさつ
  3. テーマ（自治振興会とまちづくり）に基づく意見交換及び地域の課題に基づく意見交換  
（要約）

**会長** （鳴門西地区の現状、活動状況について報告を行う：公民館まつりで食事サービス、独居高齢者へ歳末訪問、事故防止看板・安全灯設置、白線補修、3地区で避難訓練、EM浄化活動、粗大ごみ・資源ごみ回収、不法投棄パトロール、花いっぱい運動で施設へ花提供、ハマボウ・コスモスまつり参加、県道・国道のゴミ拾い、ウチノ海総合公園で飾り付け、昔の遊び伝承、放課後教室へ協力、グランドゴルフ大会・うずしお歩け歩け大会開催、各種研修会等へ参加、鳴門のまつり・子どものフェスティバル協力等について）

**市民** 鳴門市には大きな問題が山積しており、広い視点で思い切ったことをするのは非常に難しいと思う。そのような状況の中、少なくとも何をしたいのかを聞きたい。

**市長** マニフェストで掲げた3つの約束、7つの挑戦を実現するためには、まずは財政の健全化をしなくてはならない。平成27年度までの財政見通し、取り組みを示したスーパー改革プランを現在作成しており、9月の議会へ提出する予定だ。どうすれば市役所の持続可能な運営ができるかを探り、ぜひとも健全化をやり遂げたい。

やるべきことが多くある中で、どれだけ投資経費を捻出できるかが問題となってきている。現在取り組んでいる学校の耐震化が平成27年に終わる予定で、それまでは、耐震化を含めた防災を中心としてやっていきたい。

次に市バスの問題であるが、平成25年度までに公営企業としてのバス事業から撤退することを決定し、最も効率的な撤退のために、その時期を見極めている段階だ。公営企業としてのバス事業から撤退しても、市民の足を守るために市が関わっていくことはお約束しているところだ。今ある資源の活用として徳島バスの利用、そこへの市からの補助金とかたちで皆さまの足を守っていきたい。例えば、今現在市バスの走っている鳴門東地区から公営企業として市バスが撤退することになれば徳島バスに協力を要請するなど、あらゆるところで効率的にやっていきたい。

鳴門町全体で買い物に利用する交通手段についてのアンケートを行ったところ、2.7%が徒歩、10.7%が自転車、1.8%がオートバイ、74.1%が自動車、3.6%がバスを利用しているという状況だった。需要の大小の話は別として、生活のためにバスを利用しているかたに対して、きめ細やかな対応をしていきたい。

競艇事業については、平成3年には2兆円あった全国的な売上げが、昨年は9,200億円、今年の予想は8,800億円となっており、このような厳しい状況の中で存続させていかななくてはならない。議会の先生がたからのご指摘もあり、様々な改革を行っている。経営の改善へ向け、売上げが下げ止まりしない状況は非常に難しいが、今は収支ゼロを目指している。そのためにも、本場、特にポートピア土佐の収支改善へ向け対応していきたい。今年度中には、方向性がでてくると思う。オラレ美馬は、予想以上の売上げで利益も入っている。競艇事業は、ここ2、3年が勝負であり、そこで赤字が出るようであれば難しい状況になる。何とか黒字に戻し、繰入金を出して皆さまがたに還元していきたい。

市の花火大会に、鳴門競艇は開設当時から資金提供を行っている。また阿波踊りの栈敷の費用も提供しており、そのことを是非知っていただきたい。鳴門競艇がこれまで市に繰り入れた額の総額は900億円を超えており、様々な行政サービスへ使われている。

まずは、この1、2年は財政の健全化をしていきたい。そこから出てきたお金で、子育て、高齢者への施策等に取り組んでいく。ある資源、ある人材を使い、できる限りやれることをやっていこうとしている。財政の健全化の中で、毎年どれだけのお金を使っていけるか、分かりやすく説明していくことを基本に置いている。そのため今回初めて予算編成過程を公開したが、分かりにくいという評判もあるので、次回からもう少し工夫したい。まずは財政の健全化に道筋をたて、それ以降に新たな話をしていきたい。

**市民** 公共の建物の修理、建て替えに、優先順位はあるのか。

**市長** 耐震化は、学校を一番に考えている。子どもたちの命を守るのが、最優先の義務ではないかと思う。様々な公共施設がある中で、できる限り耐震診断をし、優先順位を付けながらと考えているが、まずは学校の耐震化を着工したいと思っている。

**市民** 消費生活センターのある建物は、地域の避難場所ともなっているが、雨漏りはするし、屋根は傷んでいる状況だ。建て替えには、どれほどの経費がかかるのか。全部を市の負担ということではなく、住民の力で費用を捻出できればと思っている。5年、10年と目安の目標をもって頑張っていきたいと思うが、学校の耐震化が最優先なのか。

**市長** 非常にうれしい話をいただいた。すべてを行政に任せるのではなく、一人ひとりができることをやっていく。それは鳴門西地区全員の共通した認識だと理解している。

耐震化は学校を1番にやらせてほしい。消費生活センターの建物には何度か行ったこともある。耐震化にはかなりの費用がかかり、計画にも載せていけないため難しいと思うが、今何ができるか、どのようにやっていけるのかを考えたい。

**市民** 建て替えるにはどれくらいの費用がかかるのか。

**市長** 例えば、仮に昭和38年に建てられた市庁舎を建て直す際に、庁舎内に移動させることなどが考えられる。消費生活センター単体での建て替えの費用は分からない。

マニフェストにもある消費者の相談、女性支援センター等の相談業務は、市役所や役場がやらなくてはならない仕事の一つであり、できる限りのことをやりたい。

**市民** 鳴門西地区のために何ができるかを聞きたい。学校の耐震化が最優先とは聞いたが、鳴門中学の体育館は雨が降ったら授業ができないような状況でも、耐震の一環としては見なされないとの説明だった。

**市長** まちづくり出前市長室は、それぞれの地区へ行き市全体の中での話をするものだとい

うことをご理解いただきたい。鳴門西地区は、行政との協働、自立をしている地区として現在の鳴門市の中で1、2の地区であり、今後も目標になっていく地区だと思っている。

例えば、活性化ということについてだが、人口が増えている所が一番活力があると思っている。数年前65,000人だった市の人口は、現在62,500人ぐらまで減少しているが、板東の桧、高島の三ツ石の2地区は人口が増加している。人は活性化のための資源であり、これらの地区が活性化することにより、市全体が浮上していくのではないかな。

鳴門西地区の課題の一つとして、また全国的にも買い物難民という問題がある。地域で買い物をする場所がなくなってきている。最近、鳴門西ボランティア、NPOの方々は、環境、防災、保険、子育て等の分野で色々な活動をされている。

商売、ビジネスの手法で地域の課題を解決していこうというコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスと言われているものがあるが、利益を非常に薄くして地域の課題を解決していこうというものだ。買い物については、だれかが仕入れてきて、交通手段のない高齢者のかたに安く物を提供する。それも一つのソーシャルビジネス、社会的に有望な、問題を解決していくようなビジネスになっていくのではないかな。鳴門西地区であれば、それができる土壌がある。市では、コミュニティビジネスを一つでも二つでも立ち上げてほしいと思い、年間通じて5回講習会を行っている。機会があれば、来て聞いていただく、これがまた一つのヒントになる。また新しい地域の活性化になると思う。

鳴門西地区は、環境意識が高く、ごみの分別は最初からできており、生ゴミもあまり出さない、その中で堆肥化もされている。上勝町では、ゼロウエスト宣言といった生ゴミを出さない、ごみは30種類に分別するという活動をしている。これができるのは鳴門西地区ではないかな、将来宣言していただけたらと思えるくらい潜在的なものがあると思う。

今年の2、3月に幼稚園が狭いということで、現場を見たが、非常に狭かったので、耐震化できていない施設の拡幅制限の上限までリズム室を増設する予定だ。9月初旬に建築確認申請取得、10月には入札をして着工していきたい。卒園式に間に合う来年の2月には完成を目指したい。

**市民** 高齢者の買い物難民だが、埼玉では都心に客を取られないよう、高齢者に週何回か買い物に来てもらい、その日のうちに荷物を宅配するサービスを取り入れている。そのようなサービスがあると、高齢者は何も持たずにバスに乗れる。また、退職した職員が二人一組で、独居高齢者や高齢者のみの世帯に、分別のできないごみを取りに行き、持って帰るというサービスをしているところもある。他市のサービスに目を向けていただきたい。鳴門市にもできると思う。

また、花火の際、臨時駐車場の使用に500円かかるが、安くないかな。

**市長** 駐車場の500円は色々な兼ね合いの中で市内、県外のかたも含めて考えたうえでの料金だ。近所のかたが利用するには負担がかかるが、そういう側面もあることも理解いただきたい。

商店街については、工夫が必要だ。銀天街の納涼市は、2代目、3代目の若手が行っており、議論をしたら非常に元気があり、彼らの年代が頑張っていくと思う。毎月商工会議所青年部の会があるので、必ず参加しお話をする。ヒントなど助言できれば、何らかのことを考え行動してもらえと思う。

市ではふれあい収集を行っており、高齢者を対象にベッドの柵やスプリングの入ったマットなどの粗大ごみを収集している。電話をもらえばクリーンセンターの担当者が自宅まで行き、回収する。独居高齢者、高齢者のみの世帯に限られるが、先程の話に近いかたちで行っており、ふれあい収集の制度を知ってもらいご理解いただきたい。

**市民** 電話だけでは駄目で、FAX等での申込みが必要になっている。手続きが高齢者には難しく、地元のボランティアが足を運ばないと申請できないのが実情だ。

**市長** 早速確認し、改められるようであれば改めたい。

**市民** 鳴門西地区全体の排水処理のためには、ポンプ場が3基必要であるようだが、現在は1基しかない。昨年、必要なときにポンプが故障した。2基目はいつできるのか。

**市長** 計画では3基であるので今現在は3分の1の能力だ。正常に動けば浸水は起こりにくいとは考えているが、財政状況を見極めながら、できるだけ早くと思っている。計画の総費用26億円のうち、今現在18億円投資しており、残りは2基分の8億円という状況だ。メンテナンスをしながら、できる限り故障しないようにと考えている。

**市民** 鳴門西地区の都市計画、黒山中山線についてどういう動きになっているか。

**市長** 黒山中山線は、県が用地交渉をしているが、黒山は80%ほど買収されており、三ツ石側も買収を進めている。1年ほど前に工事にかかりたいとのことで、黒山の側の方へくい打ちを始めたが、地元が全然話を聞いていないのに、くい打ちが始まったということで、混乱しストップしている状態だ。

今、対策協議会ができていて、県の担当者が話し合いをしている状態だが、接点が見つけられず、買収した道の幅にくい打ちさえできていないという状況で非常に遅れており、いつできるかという目途がたたない状態だ。この道路ができて黒山地域にはメリットがないというかたがいる。

道路の計画は4車線であり、黒山から野の方へ渡ることがなかなかできない。信号機をつけたら良いとのことだが、今鳴門公園線に接続している所に信号機があるため、距離が近すぎて、横断する信号機ができないので非常にもめている。トンネルを掘ればという話が出たが、今度は急な傾斜のトンネルは難しい。車の交通量が多ければ4車線必要だが、2車線で対応できる交通量ではないのかという声もある。

観光の観点もあるが、地元にとっては小鳴門橋が老朽化しているので、生活道路に使えるだろうということで、どうか通してほしいという話である。都市計画決定をした4車線道路だから、県は2車線に直すということもしない。話が進まずに交渉の途中だ。

**市民** 中島の住民にとってもあまりメリットは無い。心配するのは大型車がどんどん通るとウチノ海の公園に入る車や自転車で渡る人、今の状態でも危ないのに怖い気がする。

**市長** 小鳴門橋に関して、黒崎の出前市長室の時に、夜トラックが通り寝むれないという話が出た。香川方面から来たトラックは、小鳴門橋を通り大鳴門橋へ行く。それは、鳴門北インターチェンジと鳴門インターチェンジだと料金が違うため、少しでも安い方をと、わざわざ下を通っていく。鳴門と鳴門北インターを同額にすれば、たぶん鳴門インターから上がるだろう。県を通じて話をしているが非常に難しそうだ。本四とNEXCOという別々の会社になっており、高速道路料金の見直しで、その部分だけでも一緒にしてもらえれば、道路は傷まないし、安全だし、高速道路も利用してもらえる。皆さんのお力もいただきな

がら話を進めていきたい。

**会長** マスタープランはどうなっているのか。

**市長** 公共交通機関の整備や、歴史的な建造物の福永家住宅、景観づくりのための草刈り条例、黒山中山線、ウチノ海公園の活性化、温泉やプールの整備などの意見があったと聞いている。

**市民** 市民が夢を持てるようなプランにしてほしい。

**市長** マスタープランを作るために皆さんから買い物はこういう所ですとか、どういう所へ行くとかいろいろな統計もいただき、どういうまちを作っていくか計画をしている最中だ。鳴門については教育大学もあり、文教のまちプラス観光のまち、大麻の方については歴史のまち、ドイツ館、八十八か所、1番さん・2番さん等があるのでそちらを中心に観光でやっていくとか、大まかなものはできているがなかなか厳しい。

**市民** 野犬が多くて、その野犬が子どもをあちこちに産んでいる。事故がおきてからでは遅い何か手だてが必要だ。以前、保健所が毎週月曜日に来ていたが、なかなか捕れるものではない。餌をやっている人もいる。

**市長** 徳島県動物愛護管理センターに聞いたが、高島地区には毎週のように捕獲に来ているがなかなか捕れず、今は対処療法で間引く程度なので、抜本的に考えないと対応できないとのことだ。しかし、野犬に餌を容易にやってしまう、このモラルの問題から始めないといけない。

去年、県の獣医師会の方が、去勢手術をボランティアでしたいので、鳴門市でもある程度補助できないかという話があった。徳島市で200頭、鳴門市で50頭ほど予定しているという話であった。飼い犬、飼い猫も含めて外へ出たら繁殖していくので、飼う時にはきちんと去勢をして増やさないようにする、難しいかもしれないがそんな取り組みをしている所もある。

**市民** 草刈り条例を作らないのか。従わない場合は罰則がある。

**市長** 条例を作っても、その運用が難しい。罰するには、検察へ行き判決をもらってから罰金となる。条例を実効あるものにすることが難しく、そのための罰則だが。草刈りをしない人の代わりに市が代執行をし、費用がかかったとする。その人にその費用を支払えと言っても支払わない場合、市がまるまる税金を使うことになる。条例のある他市町に確認したが、代執行をしたのは1箇所しかないという状態。条例を作ったところで守ってもらえるか難しい。

**市民** 刈るように言っているのか。

**市長** 電話をもらったら現場確認し、所有者を調べて文書で除草の依頼をしている。去年は185筆の空き地があり、その半分が高島三ツ石地区だ。今年も4月末までに114筆の空き地の除草依頼をしたが、約71%の81筆が高島・三ツ石地区だ。8月24日までに除草してくれたのが51筆で、全体の44.7%は聞いてくれている。

**市民環境部長** 通知をする時は、環境政策課、鳴門市の名称で出しているが、実際に困っている地域の方と一緒に通知を出すのはどうだろうか。鳴門西地区であれば、鳴門市と鳴門西地区自治振興会と連名で出せばさらに効果があがるのではないか。

**市民** 依頼された所有者の家族が草刈りに来た時、近所の人が怖いくらいに文句を言いなが

ら刈っていたが。

**市民環境部長** 地元の人が本当に困っているという意味で連名にしてはという、一つの案だ。

**会長** 中島・高島地区は、今まで以上に多く刈れているので、市から何回も案内していると思う。地主さんに直接話しもしてくれている経緯もある。かつて全地主さんに、市長、警察、地区自治振興会の連名で出して、確かに良く刈ってもらい効果があった。その当時から草刈り条例を言っていたが、市長が答えたように、作るのは簡単だが後の処理が難しい。それならば、雑草が多くて困る場合は、地区の人が個人的に言えれば一番良いが、地区会長からクリーンセンターに言ってもらえば良いのではないか。

**市民** 連絡所に市職員OBが来ているが、こういう人を雇用するのではなく、働きたくても働けない若者がたくさんいる。その方達の中にも大卒でしっかりした学力のある人もいると思う。個人情報扱いもあるので経験のある人の方がプライバシーを守るためにも良く、市職員OBの再雇用をしていると聞いた。どんどん雇用状況が悪くなっている中で市職員OBだけこのように優遇されるのはおかしい。これに対して市長や幹部はどう思っているのか。さきほど市長の方から来年の3月、4月くらいにはいろいろなものをゼロから見直したいとのことだったが、ゼロから見直すなら一般に職員を採用、臨時職員を採用して考えてもらいたいと思う。

**市長** 再任用制度は、市の方から市民の皆さんに制度の話をしたことがなかったと思う。平成13年に条例が成立し、運用開始は19年からだ。

制度の目的だが、鳴門市は、平成18年度から22年度までの間に130人の方がやめて、職員が減ってきている。そこで1番効率の良い埋め方ということで再任用制度を活用した。今回39名にもなり、それぞれの部署で本当に再任用の人で良いのかという声も上がってきた。その矢先に今回の事件があり、本当に申し訳なかったと思っている。9月までには方向性、年末までには全て、正規・再任用・臨時職員等を含めて1番良い形態の雇い方を個別に示したい。

今の経済状況の中、雇用が無いところに市職員OBを雇うのはどうかということもあるが、雇用対策としては、再任用制度とは別に、国の緊急雇用制度を活用し、平成21年度は93人を雇い、今年は105人を雇っている。

連絡所も含めて再任用の職場について、ヒアリングも行い、業務量も見ると再確認した。連絡所の中でも業務量に差があり、特に大麻の堀江、板東についてはかなりの相談、業務量があることが分かっている。北灘、瀬戸、高島、里浦も短期間ではあるがデータを見た。勤務時間の短縮や業務内容等検討している。

再任用職員、嘱託職員、若い臨時職員、どんな形態が良いのか、業務によって変わってくるので、もう少し時間をいただいて検討したい。

**市民** 市OBの人の中には、私たちのために、経験を生かしているいろいろ考えたり、公民館を利用する人の話し相手や、相談にのってくれたりする人もいる反面、そうでない人もいる。空いている時間に地域のために何かしてもらうことはできないか。

**市長** 先ほど言ったとおり、形態も様々あるし、業務量や連絡所の役割ももう一度考え直すこともやらないといけない。業務によっては、どのような人が相応しいのかということも合わせてゼロから見直したいと思っているので、いろいろとご意見をいただきたい。

9月までに方向は出す。個別の所については3月となっている。

**市民** 地域バスの再検討をお願いしたい。

**市長** 前回の説明の際、ご意見をもらったが、今回それも含めて再検討している。高島線の朝一便、鳴門病院経由の便は残したい。昼の便は徳バスに依頼をした結果、12時台の便については徳バスに依頼して走らせる。15時台の便については朝の一日目に振り替えるかたちでなくなってしまうが、このような対応を考えている。

**総務部長** 前回の意見で、大きな課題があった。1つは、先ほど市長から回答した分。2つ目は、運動公園に直接行くことだったが、平日の朝一便については、地域バスで運動公園へ行けるようになる。12時台の便については、徳バスと時間調整をして連携を図りたい。

3つ目は、ウチノ海総合公園へ行く際、昔の高島停留所を南へ1回下りてから行けないかということだが、前回は、徳バスの回答では迂回運転に時間がかかり困難だということであったが、徳バスとの交渉の結果、行けるようになった。

4つ目に、徳バスになっても老人の優待制度の存続を望むとのことだった。当初は郵便局前までだったが、交渉の結果、市役所前まで老人優待券で乗れるようになった。一部減便だが、その他の運営については、今の案としては要望どおりいけるようになった。9月の議会で了解されたら、12月から新しい運行になる予定だ。

**市民** 大潮になると、低い住宅の所まで潮水が上がってくる。潮位が高いときは道路が冠水するため水門を閉めるが、それでも潮位が上がってくる。中島地区とつながっているところに堰があり、中島地区と差し板で区切っている。古くてひびが入っておりその隙間から水が入ってくる。早急に対応をお願いしたい。

**市長** 一度現場を見たい。

**市民** 地域のボランティアに参加し活動しているが、市職員が参加していない。市民と一緒に行政をしていくなら、もう少し考えてほしい。

**市民** 警報が出ると、消防、議員、自治振興会、公民館長等は出てきている。警報が出て、対策本部ができてから避難するというのは現実的には難しい。市民と同じレベルで、なるべく早い段階で市職員にも出てきてほしい。

**会長** 警報が出た時点で、消防団、小学校、公民館は開けている。そこに市の職員が来ていないが、警報が出た際には、職員を配置したらと思う。

**市長** 対策本部の段階、その前の段階、さらにその前の段階と3段階ある。対策本部ができると全員出てくるとか、その前の段階であると支部長の判断となったりする。タイムラグをできるだけ埋めるようにしたい。

市全体としてのボランティア活動については、阿波おどりの前には、市職員で作るボランティアクラブをはじめ100人の市職員が、鳴門駅前の清掃をしたり、納涼花火大会の次の日には朝の6時から市職員の有志が燃えかすやごみの清掃をしたりするなど、徐々に活動している。地域における市職員のボランティアについては考えていきたい。

以上